

市町村	団体名	団体の功績		地域の概要
		概要	活動の特色	
1 鳥取市	こわしがわ 小鷲河ふる里をまもる会	ヤマメのつかみ取りや法師ヶ滝ウォーキングなど自然を生かした住民交流事業、運動会の種目に防災の知識を身につける競技を取り入れた防災運動会、大阪国際大学と連携した法師ヶ滝フットパスなどの取組を行っている。	○「楽しい・おもしろい・美しいふる里をつくる」を目標とした取組 住民意見や発案を取り入れ、ヤマメの稚魚の放流から育てる環境整備に取り組んでいる。 ○防災運動会の取組 NCNや日本海新聞といった地元メディアでも取り上げられたほか、他の地区からの視察も受けるなど、地域の活性化に貢献した取組である。 ○法師ヶ滝の活用と補修 大阪国際大学久保ゼミの鹿野チャレツジと地元が連携して「果樹の里山まつり」で法師ヶ滝フットパスを行っており、地域の活性化につなげている。	鳥取市小鷲河地区は、名峰鷲峯山の麓に位置し、河内川の清流に沿った7つの集落から成り立つ、自然に恵まれた地域である。鷲峯山、法師ヶ滝、茂宇気神社、川六作の狛犬で有名な鷲峯神社などの名勝がある。また、山城跡を近年発掘調査した結果、狗戸那城（くしなじょう）は立地、構造等から見て戦国時代の西因幡において軍事上重要な拠点であったと考えられる重視すべき城として注目されている。
		代表者氏名 たなか よしひろ 田中 義宏		
		団体要件 住民自治組織の連合組織		
		団体規模 360名（176世帯）		
2 鳥取市	やしろ いきいき社まちづくり協議会	共助交通「いきいき社バス」を整備し、住民の通院・買い物、小学生の通学などに利用しているほか、地区の防災マップ「避難スイッチ」を作成し避難者支援に取り組んでいる。	○共助交通「いきいき社バス」 地区の住民3名が運転業務を行っている。令和4年度は延べ2,005回、令和5年度には延べ2,188回の利用があり、地域住民の足として役割を果たしている。 ○防災マップ「避難スイッチ」 平成30年の7月豪雨発生の際、地区の住民から避難について多くの問い合わせがあったことを教訓に、「自分の命は自分で守る」を原則として作成。この発想が用瀬町内に広がり、町内3地区のまちづくり協議会、自治会長会、自主防災会、用瀬町社会福祉協議会、鳥取市が協力し、作成に取り組んだ。	鳥取市用瀬町社地区は、鳥取市南部・中国山地の懷に16の集落が点在し、山あいを流れる千代川とその支流・安蔵川の流域の中山間地域で、農林業を基幹産業とする。
		代表者氏名 にしかわ こうみ 西川 功美		
		団体要件 住民自治組織の連合組織		
		団体規模 959名（417世帯）		
3 鳥取市	特定非営利活動法人さじ未来	佐治町内における、地域助け合い事業（お助け要員派遣事業）や、地域内交通事業（「公共交通空白地有償運送」による共助交通）の取組を行っている。	○地域助け合い事業（お助け要員派遣事業） 地域のいろいろな問題にお助け要員（地域住民）を派遣する事業として、スマホ操作、ゴミ出し、雪かき、草刈りなど、地域住民の生活の困りごとに、お助け要員を派遣し支援する。 住民間の距離が近い、顔見知りの強みを生かした事業であり、さじ未来が困りごとのある地域の住民と、人の役に立ちたいと思っている地域の方をマッチングさせる。 ○佐治町における地域内交通事業 国が指定する法定講習を受けた有志の地域住民がドライバーとなり、有償運送事業に取り組んでいるもので、通学、通院、買い物など、幅広く地域の方に利用されており、「佐治町民の暮らしを支える“生活交通”を創り・守り・育てる」を基本理念にしている。	鳥取市佐治町は、鳥取市の西南部に位置し、旧佐治村の全域に当たる。町内は、佐治川沿いに集落が点在し、東西に16.6km、南北に8.5kmの東西に細長く広がる地域である。佐治村時代から「星」、「和紙」、「はなし」、「石」、「梨」の五つの地域資源を中心とした地域づくりの取組を行っている。
		代表者氏名 こだに しげき 小谷 繁喜		
		団体要件 住民自治組織		
		団体規模 1,545名（726世帯）		
4 米子市	しょうとくご 尚徳和みのロード運営委員会	尚徳公民館から尚徳小を経由し、老人保健施設に至る約450メートルの道のりを「尚徳和みのロード」と命名し、地域住民や小学生・園児による花の植え付けや水やり等の活動を行っている。	○尚徳地区におけるふるさとづくりの取組 尚徳地区では「水と緑と花」と調和した感性豊かな地域景観づくりを推進してきた。 公民館・小学校の周りに保育園・病院・老人施設などが近接し、地域住民が行き交う場所になっていることから、小学生や園児が笑顔あふれる通学路となるように花を植えようという機運が高まり、平成23年に「尚徳和みのロード運営委員会」が設立した。 花植え作業は毎年6月と10月の2回行われ、地域住民の指導のもと、小学生や園児が植え付け・水やり活動を行っており、現在は約450メートルの道のりに190個ものプランターが設置されている。	米子市尚徳地区は、米子市の南端に位置し、地区のほぼ中央を貫流する法勝寺川・小松谷川が運ぶ肥沃な大地で農業を主体として栄えてきた。米子市の桜の名所となり小学生の春の遠足の地として広く市民の皆様が親しまれており、自治連合会をはじめ尚徳地区の様々な関係機関で構成する「法勝寺川・小松谷川を美しくする会」「尚徳さくらの里推進協議会」を設置し、先人から受け継がれてきたこの地特有の美しい地域景観を守り繋いでいる。
		代表者氏名 たご しゅういち 田子 周一		
		団体要件 住民自治組織		
		団体規模 1,569名（634世帯）		

市町村	団体名	団体の功績		地域の概要		
		概要	活動の特色			
5 倉吉市	よこてじちこうみんかん 横手自治公民館	毎年11月に、秋の収穫感謝を目的に、子どもから高齢者まで、横手集落全員を対象とした「横手収穫祭」を開催している。また、休耕田を利用したヒマワリ畑の整備などに取り組んでおり地域活性化を図っている。	<p>○横手収穫祭の開催 平成17年から毎年開催している。 集落全体で祭りに参加し収穫を祝い、祭りで提供する食材は、集落で収穫したものを使う。 横手集落ではホンモロコ（琵琶湖固有の淡水魚。高級魚として珍重される。）を養殖し、京都の料亭などに出荷しており、収穫祭ではホンモロコの唐揚げがふるまわれるなど、ホンモロコの取り上げイベントも兼ねている。</p> <p>○休耕田を利用したヒマワリ畑の整備 10年以上前から、毎年、約2,000㎡の休耕田にヒマワリの種を植え、地域の景観づくりに取り組んでおり、毎年多くの人を楽しませるなど、地域活性化に寄与している。</p>	倉吉市横手地域は、倉吉市の西端に位置し、志村川流域の谷あいであり旧高城村の一部に当たる。主として河川によって水田地帯を形成し、丘陵地は畑で、山野に恵まれた農山間地域である。		
					代表者氏名	かわの まさと 河野 正人
					団体要件	住民自治組織
					団体規模	49名（19世帯）